

2014 年度 入学試験問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。
問2～問9はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

日本では、1946年に が群馬県岩宿で石器を発見したのをうけて1949年に学術調査が行われたことを契機として、旧石器時代の文化の存在が明らかになった。この時代の人々は十人から数十人程度の小集団をつくってたえず移動しながら、植物性食料の採取と狩猟を中心とする生活を送っていたと考えられている。狩猟には、ナイフ形石器や などを槍先としてつけた石槍などが用いられた。この時代の人々の化石人骨として、例えば1960年から1962年にかけて静岡県内で発見された 人骨などがある。

縄文時代に入ると、人々は磨製石器や土器を用いるようになる。この時代の人々の多くは、日あたりがよく飲料水も求めやすい台地上などに竪穴住居をつくって住み、植物性食料の採取や狩猟・漁労を行って生活していた。また、石器の原材料となる黒曜石やサヌカイト、装身具として使われた硬玉などについては、かなり広い範囲での交易が行われていた。こうした生活の様子は、当時の集落跡に残る貝塚などからも推察できる。

次の弥生時代になると、朝鮮半島などから日本に伝えられた水稲耕作を基礎とする弥生文化が急速に広まった。弥生文化の特徴としては金属器の使用や縄文土器から弥生土器への変化などがあげられるが、この弥生土器という名称は、1884年に東京の本郷弥生町 貝塚で土器が発見されたことに由来する。この時代には、稲作の普及に伴い人々の生活は縄文時代よりも安定し、人口も増え集落規模も拡大していったが、依然として狩猟や漁労なども行われていた。集落の人々は共同で祭祀を行なったが、時代が下るにつれ集落のなかでは次第に身分の差も生じてきた。

3世紀後半になると日本は古墳時代に入り、その後様々な形態・規模の古墳がつくられるようになった。最大の古墳は仁徳天皇の墓所とされる古墳であり、それに次ぐものが応神天皇の墓所とされる 古墳である。この時代になると農具や生産技術の進歩により前の時代よりも農業生産力が向上したが、身分差も一段と明確になり、支配者である豪族と被支配者である民衆の生活がはっきり区分されるようになった。豪族はみずからが住む居館の周辺に倉庫をつくり、余剰生産物などを蓄えた。一

方、民衆は豪族の居館から離れたところにある竪穴住居などで暮らしていた。古墳時代の民衆にとっても祭祀は弥生時代と同じく重要なものであり、また、裁判に際し熱湯に手をを入れて手がただれるかどうかで真偽・正邪の判定をする [6] などの呪術的風習も行われていた。

その後飛鳥・白鳳時代を経て奈良時代に入ると、律令体制の下、農業技術にも一定の進歩がみられたが、一般の民衆は戸籍に登録され、租・調・庸などの重い税負担や労役を課せられたこともあって、その生活は楽なものではなかった。このため、農民のなかには、戸籍に登録された土地を離れて浮浪・逃亡し地方豪族のもとに身をよせたり、国家の許可を得ずに自分で勝手に得度して [7] となったりするものも増えていった。

問1 文中の空欄 [1] ~ [7] に入るもっとも適切な語・人名を答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 土器の文様として縄文を施したものが多くなるのは、縄文時代早期以降のことである。
- b 縄文土器の多くは、壺形を基本とする黒褐色の厚手の土器である。
- c 土器づくりの基本的な技術は、縄文時代の文化から弥生時代の文化へと継承された。

問3 下線部②に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 縄文人は、弓矢や落とし穴を用いてヘラジカやオオツノジカなどを捕獲していた。
- b 縄文人は、クリやドングリを採取するだけでなく、マメ類やヒョウタンなどの栽培も行っていたと考えられている。
- c 縄文人は、丸木舟を用いて漁労を行ったが、外洋を航海する技術は持っていなかった。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 黒曜石は、現在の北海道十勝岳などで産出した。
- b サヌカイトは、現在の大阪府と奈良県との境にある二上山などで産出した。
- c 硬玉は、現在の新潟県姫川などで産出した。

問5 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 弥生時代の水田は、灌漑・排水用の水路を備えていた。
- b 弥生時代の中・後期になると、乾田だけでなく、新たに湿田の開発も進められるようになった。
- c 弥生時代の木製農具の製作には、前期の当初から鉄製工具が多く用いられた。

問6 下線部⑤に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 弥生人は亡くなるとみな共同墓地に葬られたが、有力者の場合は鉄製の武器・武具が副葬されることが多かった。
- b 弥生時代には、鹿の骨を焼いて吉凶を占う太占の法をはじめとする様々な呪術的風習が行われていた。
- c 環状列石は、弥生人が自然や収穫物の再生を祈るための祭りを行った場所の遺構と考えられている。

問7 下線部⑥に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 古墳時代前期・中期は古墳の埋葬施設として竪穴式石室や粘土槨が設けられたが、後期になると横穴式石室が多くなった。
- b 古墳時代中期の巨大な前方後円墳は、近畿地方のほか中国地方や九州地方にもみられるが、関東地方では発見されていない。
- c 古墳の墳丘上に並べる埴輪は、古墳時代前期には円筒埴輪や動物埴輪などが用いられたが、後期になると人物埴輪や家形埴輪も用いられるようになった。

問8 下線部⑦に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 古墳時代の民衆は，数家族からなる集落がいくつか集まって，それを環濠で囲み，1つの村落をつくっていた。
- b 古墳時代の民衆の住居の内部には炉に代わってかまどが設けられ，^{こしき}甑を使って米を蒸すようになった。
- c 古墳時代の民衆の衣服は，男女とも衣に乗馬ズボン風の袴という大陸からの影響を受けたものが多かったと考えられている。

問9 下線部⑧に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 奈良時代の農民は口分田を耕作したほか，収穫の3分の1の地子を支払って乗田などを耕す者が多かった。
- b 奈良時代の民衆の婚姻形態としては，妻問婚をはじめ婿入婚，嫁入婚など様々なものがあつたが，結婚後は，妻は夫の姓を名乗るのが通例であつた。
- c 奈良時代の民衆の葬儀は土葬が一般的であつたが，一部では火葬も行われるようになった。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。
問2～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

10代將軍徳川家治の死去に伴い天明6(1786)年田沼意次^①は老中を罷免され、意次の下でなされていた多くの政策が中止となった。罷免翌年には全国30余の都市で打ちこわしが相次ぎ、とりわけ江戸では、市中の米屋などが襲われ、幕府に強い衝撃を与えた。この年、老中に就任したのが徳川吉宗の孫である奥州白河藩主の松平定信である。定信は勤儉・尚武を重んじた祖父の政治を理想として幕政の改革に着手した。白河藩においても同様の方針の下、天明3(1783)年の飢饉によりもたらされた藩の窮状を克服し、他藩からその手腕を評価されていたのである。定信の政治は田沼政治の否定であり、そのいわば対極ともいえるものだった。

定信の幕政改革の一つの柱は、打ちこわしなどの再発を防止する都市政策にあった。定信は物価の引き下げを命じ、米の買い占めを禁じるなどの経済政策を実施するとともに、の節約を命じ、節約分の7割を積み立てさせ、新たに設けた江戸町会所にこれを運用させることで米や金を蓄え、飢饉や災害時に困窮した貧民の救済策とした。さらに江戸に流入した農民の帰村を奨励する旧里帰農令を出すとともに、治安対策として石川島にを設け、無宿人を強制的に收容し、技術を身につけ職業を持たせようと試みた。

改革のもう一つの柱は、相次ぐ飢饉などで荒廃した農村の復興だった。農業人口を確保して耕地を復旧するために、農民の出稼ぎを制限する一方で公金の貸し付けが行われ、また飢饉に備えて米穀を蓄えることを諸藩に命じた。これをという。

旗本や御家人に対しては、を出して札差に貸金を放棄させることで、窮迫を救済する一方で、厳しい勤儉と文武の修養を求め、田沼政治の下で緩んだ綱紀の引き締めを図った。寛政2(1790)年には、朱子学を正学とし、それ以外の儒学の学派を異学とする寛政異学の禁を出した。^⑤また民間に対しても定信は厳しい態度で臨んだ。を出して政治への批判を抑えるとともに、他方、華美淫風に流れる風俗を矯正しようとしたのである。林子平が『三国通覧図説』を著し、また『』で海岸防備の必要性を説くと、これを幕政批判とみなし、またが『鸚鵡返文武二道』を著すと、これを幕政改革に対する風刺とみなして処罰したのである。一

方、遊里を題材にした『仕懸文庫』を出版した蔦谷重三郎らは、風紀紊乱を理由に処罰されている。

やがて朝廷および武家伝奏の公家と対立した と呼ばれる事件を引き起こしたことや、將軍家斉の父の処遇問題などをめぐって家斉との関係が悪化したことなどにより、定信は在職6年あまりで老中を辞職することになるが、ロシア使節ラクスマンが来航し通商を求めたのは、まさにその前年のことであった。

⑥

問1 文中の空欄 ~ に入るもっとも適切な語・人名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 田沼意次は南鐮二朱銀を大量に鑄造し秤量貨幣として流通させた。
- b 田沼意次は金や銀を輸入し、銅の輸出を奨励して、貿易振興に努めた。
- c 田沼意次は民間経済に着目し、商人・職人仲間を株仲間として広く公認し、運上や冥加など営業税の増収をめざした。

問3 下線部②に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a この頃、熊本藩では藩主細川重賢が特産品を奨励し専売制を強化して、藩政改革を推し進めた。
- b この頃、秋田藩では藩主佐竹義和が村田清風を登用して、藩政改革を推し進めた。
- c この頃、米沢藩では藩主上杉治憲が人材育成のために藩校の明德館を設立して、藩政改革を推し進めた。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 定信は米価に大きな影響を持っていた大坂堂島米市場を公認した。
- b 定信は両替商など江戸の新興商人を勘定所御用達に登用し、その力を利用した。
- c 定信は物価値上げの元凶とみられた人參座・鉄座・真鍮座などの座を廃止した。

問5 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 三大飢饉として天明の飢饉と並び称されているのは享保の飢饉と天保の飢饉である。
- b 天明年間には百姓一揆が江戸時代を通して最も多く起こったといわれている。
- c 天明の飢饉によって、とりわけ津軽藩で多くの人々が餓死したといわれている。

問6 次の書物の中で天明の飢饉について記載されているものはどれか。2つ選びその記号をマークしなさい。

- a 『浮世床』 b 『笈の小文』 c 『菅江真澄遊覧記』
- d 『三国通覧図説』 e 『経世秘策』

問7 下線部⑤に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 幕府は賀茂真淵の門人塙保己一の申請を認めて和学講談所を設立させた。
- b 幕府は幕臣を対象に朱子学の理解を試す学問吟味という試験制度を始めた。
- c 定信は自身でも学問を好み『花月草紙』などを含む多くの著作を著した。

問8 下線部⑥に関連する次のイ～ホまでの出来事が起きた年を年代順に正しく並べているものをa～eの中から1つ選びその記号をマークしなさい。

イ 幕府が全蝦夷地を直轄地として松前奉行の支配下に置くことを決めた。

ロ ゴローウニン事件が起こった。

ハ プチャーチンが長崎に来航した。

ニ 近藤重蔵が択捉島に「大日本恵土呂府」の標柱をたてた。

ホ レザノフが長崎に来航した。

a イ→ロ→ハ→ニ→ホ

b ニ→ホ→イ→ロ→ハ

c ホ→ニ→ハ→ロ→イ

d ロ→ハ→イ→ホ→ニ

e ハ→ホ→ロ→ニ→イ

Ⅲ 次のA～Hは、信夫清三郎『戦後日本政治史Ⅲ』（1967年）の抜粋である（一部改変）。これを読んで、設問に答えなさい。問1・問2・問10・問11は記述解答用紙に答えなさい。問3～問9・問12はマーク解答用紙にマークしなさい。（40点）

A 日本経済復興の速度を早める決意をかためたアメリカは、いよいよ財閥の解体に^①終止符を打つことにした。1948年12月9日、極東委員会のアメリカ代表マッコイ^②は、委員会の定例会議で日本の経済力集中排除問題についてF E C 230号文書はもはや不必要になったと声明した。F E C 230号文書は、1947年5月にアメリカが策定した過度経済力集中排除に関する計画案であり、日本経済にたいするニュー・ディールといわれ、それゆえにまた議会から社会主義的だと攻撃され、極東委員会の手に保留されていたものである。

B アメリカの対日政策は、アジア・大洋州諸国から多くの批判をあびていたが、アメリカが批判をおしきって日本復興の政策を強力にすすめてくることはあきらかであり、日本政府に強力な要求をつきつけてくることもたしかであった。しかし、日本政府は、依然としてアメリカの対日政策に対応しうるような姿勢を何ら示していなかった。

事件の火は、ついに前首相 の身辺までまわりはじめた。11月2日、特捜本部は の女婿で首相時代の秘書官下河辺三史を収容した。（中略）中道勢力の傷は、いよいよ深かった。総選挙における国民の審判をおそれた三党^③は、国会解散のひきのばしを策謀しはじめた。

C 衆議院に絶対多数をもたない第2次 内閣は、国会解散と総選挙に力を集中していた。首班指名をおこなったのち組閣のために休会していた第三臨時国会は、11月8日に開会式をおこなった。解散に力を集中する 首相は、施政方針演説をしようとしなかった。第三臨時国会の任務は、 内閣からひきついだ国家公務員法の改正を果たすことにあった。しかし、国会の会期は、9日まで1日をあますだけであった。 内閣は、8日、衆議院の議院運営委員会に10日間の会期延長を申し入れた。彼らは、10日間という短期間に強引に国家

公務員法を改正し、国会を早期解散にみちびこうとした。解散のひきのばしを策謀している野党は、月末まで21日間の会期延長をおこなうよう主張し、多数にものをいわせて与党をおしきった。

D 第三臨時国会が再開された翌11月9日、臨時人事委員会は、3 内閣にたいし官公吏の給与改善について6307円ベースを勧告した。(中略)

④ 野党は、解散をひきのばすため、必死の努力をつづけていた。(中略) 彼らは、国家公務員法改正案と新給与予算の不可分を主張し、3 内閣に新給与予算を提出させると同時にその内容をとらえて批判し、総選挙のための点数をかせごうとした。彼らは、さらに解散の主導権を内閣からうばうため、解散権を問題にした。(中略)

総司令部のGSは、これではこまるとかんがえた。彼らは、早期解散が中道勢力に致命的な打撃となることをおそれていた。彼らは、解散の主導権を中道勢力に確保させるため、一策を案じた。12日午前10時、社会党の片山委員長がGSをたずねたとき、局長のホイットニー、次長のケーディスおよび国会対策課長のウィリアムスは、いっしょになって片山をそそのかした。会談を終った片山は、記者団に国会の解散権について語り、「解散は、内閣 4 による解散を定める憲法第69条によってのみおこなわれるものと思う」と主張し、「第69条以外に政府が独自の解散権をもつとのかんがえかたは、旧憲法の思想であり、かつての天皇制の思想ともつながるかんがえかたである」と強調した。

E 総司令部は、しかし、公務員法を審議未了に終らせるのをゆるすことはできなかった。(中略) GS国会対策課長のウィリアムスは、みずから国会にでかけ、野党の共同修正案以外の修正案提出を禁じるとともに徹夜の審議を継続させて法案の通過をはかった。衆議院は、夜があけて30日の午前8時05分、ようやく法案をほぼ原案どおりで成立させた。参議院で法案が成立したのは、30日の夜になってからであった。かくして難産のうちにうまれた改正国家公務員法は、12月3日に公布され、即日施行された。これにより 2 内閣の公布した政令201号は、地方公務員関係を除いて失効した。

F アメリカは、日本を日本の政府と財界にまかせておくことはできないと判断した。ワシントン政府は、マッカーサーにたいし日本復興のための [5] を日本政府に命令するよう指示した。(中略)

[5] は、総合予算の均衡によるインフレーションの即時解決をめざしていた。アメリカがインフレーションの「中間安定」でなく即時解決を要求するようになった理由は、[5] が要求した「とくに輸出貿易を最大限に振興する」ための単一為替交換比率を設定する前提条件をつくりだすことにあった。日本を「アジアの工場」とする必要は、いまやアメリカにとって決定的であった。

G アメリカは、ヨーロッパにおける平和の保障を西欧連盟の武装化にもとめ、その計画をすすめていた。(中略)

[6] 大統領は、1949年1月20日、新たな任期への就任演説において共産主義の「まちがった哲学」にたいする全面攻撃の方策を論じた。共産主義の哲学からみちびきだされている行動は、「世界の復興と恒久平和をもたらそうとする自由諸国民の努力への脅威」となっているが、この脅威に対抗するため、アメリカは前年来ヨーロッパ16ヵ国とともに「歴史上最大の経済協力計画」をすすめてきた。

H ワシントン政府は、春からインドの首相 [7] をアメリカに招待したいとかがえていた。(中略)のちに平和五原則を発表する [7] は、インドは互恵の立場からアメリカの援助を歓迎するが、「われわれが苦心してたたかいたった自由のいかなる部分をもひきかえとして物質的な利益をもとめようとはしていない」と強調した。インドを西欧陣営にひきこんでアメリカのアジア政策の支柱としようとしていた者は、この独立不羈の言動に失望した。(中略)

国務省は、対日講和条約の草案を起草しつつあった。[7] の招待がインドを西欧陣営にひきこむためならば、対日講和条約は日本を西欧陣営にひきこむための前提であった。

問1 空欄 [1] ~ [7] に入るもっとも適切な語・人名を答えなさい。

問2 下線部①に関する次の文中の空欄 に入るもっとも適切な語を答えなさい。

1946年には 整理委員会が発足し、指定された 財閥家族の所有する などの譲渡を受けて、これを一般に売り出し、 所有による財閥の傘下企業支配を一掃しようとした。

問3 下線部②に関する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 極東委員会の構成国は、アメリカ・イギリス・ソ連・中国の4カ国であり、その議長はアメリカがつとめた。
- b 極東委員会の構成国にインドは含まれない。
- c 極東委員会はワシントンに置かれた。

問4 下線部③の三党に含まれない党を次の中から1つ選んで、その記号をマークしなさい。

- a 民主党 b 民主自由党 c 国民協同党

問5 下線部④に関連する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 1945年の労働組合法により、国家公務員には労働三権が保障されていた。
- b 公務員の賃上げを求めた全官公庁共同闘争委員会の中心は、鉄道と郵便の労働者であった。
- c 公務員給与は、1964年ごろから、春闘を経た民間賃金に準じて引き上げられるようになった。

問6 下線部⑤に関連する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 彼は、幸徳秋水らとともに日本社会党の結成に参画した。
- b 彼の内閣は、労働省を設置した。
- c 彼の内閣は、政府による炭鉱の管理を目指した。

問7 下線部⑥の改正には、鉄道、専売事業等の現業部門を公共企業体とし、その職員を国家公務員法の対象外とすることが含まれていた。この現業部門に関する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 鉄道国有法は、日清戦争直後に公布された。
- b 国鉄の分割・民営化は、中曽根内閣が設置した「臨調（第二次臨時行政調査会）」の最終答申に基づく。
- c 塩の専売制は、日露戦争の戦費調達の一環として実施された。

問8 下線部⑦の「インフレーション」に関する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 片山内閣は、内閣に経済安定本部を設けた。
- b 幣原内閣は、金融緊急措置令を発し、預金を封鎖した。
- c 石炭・鉄鋼・電力への復興金融公庫による融資は、インフレを抑える効果があった。

問9 下線部⑧はいわゆる「対ドル単一為替レート」を指す。これに関する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 商品毎に異なるレートを改めて単一為替レートとしたねらいは、日本経済を国際経済に直結させることであった。
- b 単一為替レートは固定為替相場制であり、1971年末の10ヵ国蔵相会議により、変動為替相場制への移行が決まった。
- c 変動為替相場制に移行後、円は対ドルで、急騰した。

問10 下線部⑨の意味する国際組織はなにか。漢字で答えなさい。

問11 下線部⑩の名称を答えなさい。

問12 下線部⑪に関連する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a サンフランシスコ平和条約は、交戦国の戦争被害に対して、金銭ではなく、主に役務の供与により日本が賠償する義務を定めた。
- b フィリピン・インドネシア・ビルマ・南ベトナムの4カ国は、サンフランシスコ平和条約とは別に、それぞれ日本と賠償協定を結んだが、請求権は放棄した。
- c インドは、アメリカに反対し、会議に参加しなかったが、サンフランシスコ平和条約発効の年に日印平和条約が結ばれた。